

議会だより

みなみふらの



第2回定例会概要
一般質問
研修会
町長の行政報告
議会の動き

2～3 P
3～7 P
8 P
9～10 P
10 P



平成27年第2回町議会定例会は、6月25日招集され、会期を26日までの2日間と決めた後、議会運営委員会の調査報告があり、4議員による一般質問が行われました。(質問の内容と答弁の要旨は3〜8ページに掲載)その後、繰越明許費繰越計算書についての件と株式会社南富良野町振興公社の経営状況についての件の報告を受けました。引き続き、南富良野町国民健康保険税条例の一部改正等3件の議案について、審議の結果、原案のとおり可決しました。その後、総務常任委員会に平成27年度一般会計他4特別会計補正予算、条例の制定等2件、計7件が付託され1日目を終了しました。

2日目は、総務常任委員会に付託された平成27年度一般会計補正予算等7件について、委員長から「原案を可とする」報告がなされ、報告のとおり可決しました。

引き続き、工事請負契約についての件と財産の取得についての件を原案のとおり可決しました。その後、固

定資産評価審査委員会委員の選任について、無記名投票で採決の結果これに同意することに決定しました。また、議員提出による決议案「議会広報特別委員会設置に関する決議」について審議の結果、原案のとおり可決し、全ての日程を終え定例町議会を終了しました。

◆一般会計補正予算(歳出)の主なもの

- ・ 森林整備加速化・林業再生総合対策事業補助金
1億6925万円
- ・ 北電柱移設に伴う光ケーブル移設費 1191万円
- ・ 社会保障・税番号制度に係る総合行政情報システム等改修委託料
1062万円
- ・ 町社会福祉協議会補助金
750万円
- ・ 道路橋梁維持費(修繕料)
645万円
- ・ 下金山小学校屋内運動場トイレ改修工事
504万円
- ・ 臨時福祉給付金
480万円
- ・ 地域おこし協力隊報酬
306万円

◆条例の制定◆

○南富良野町の証明事務等の窓口を下金山簡易郵便局に設置する条例

利便性の向上を図るため、下金山簡易郵便局において、町の各種証明書交付と料金収納事務ができるよう定め

平成27年度各会計補正予算	補 正 額	補 正 後
一 般 会 計	2 億3564万円	42億9249万円
国民健康保険事業特別会計	128万円	4億3154万円
後期高齢者医療事業特別会計	81万円	4091万円
介護保険特別会計	179万円	2億6737万円
簡易水道事業特別会計	49万円	2億3874万円
公共下水道事業特別会計	—	1億1848万円
合 計	2 億4000万円	53億8953万円

るものです。

◆条例の一部改正◆

○国民健康保険税条例

基礎課税額、後期高齢者支援金等課税額、介護納付金課税額の課税限度額をそれぞれ引き上げるとともに5割軽減と2割軽減の軽減判定所得基準額の引き上げを行う改正です。

○介護保険条例

低所得者の軽減強化として、介護保険料の所得段階区分のうち、第1段階の保険料である年額2万7600円を平成27年度から平成29年度までの3年間、年額2万4800円に軽減する改正です。

◆その他の案件◆

○南富良野町の特定の事務を取り扱う郵便局の指定について

町の各種証明書交付と料金収納事務を取り扱う郵便局として落合郵便局と金山郵便局を指定するものです。

○辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更

北落合地区の飲用水供給施設（配水管布設替事業）の事業費を変更するものです。

○工事請負契約

・契約の目的

統合小学校改築に伴う地中熱利用設備設置工事

・契約の方法

地域限定型一般競争入札による契約

・契約金額

1億6740万円

・契約の相手方

有我・北菱特定建設工事共同企業体

○財産の取得

・取得しようとする財産

財務会計システム一式

・取得価格

795万9600円

・取得先

北海道市町村備荒資金組合

◆人事案件◆

平成27年6月26日をもって固定資産評価審査委員会委員の任期が満了となる瀧敏郎氏（幾寅59歳）を引き続き選出したいと同意を求め、議案が提出され、投票による採決の結果、全議員の賛成により選任に同意しました。

一般質問（要旨）

酒井 年夫 議員



問 民有林地流動促進の具体策は

答 森林組合との連携を強化し活性化していく

◆民有林地流動促進事業

酒井 本年度の町政執行方針の中で、民有林地流動促進事業に取り組むとあるが、当然行政と森林組合の役割分担があると思うが、行政として具体的に流動促進をどのような方策で取り組んでいるのか。

町長 平成20年6月に林地供給促進条例を制定し、森林組合の斡旋による民有林地の取得に対して、町が指定する金融機関から取得資金として借り入れた利息2.975%のうちの1%を町が助成をする内容で制度をスタートしたが、より一層流動化を促進させるべく、平成26年度からは借入利息の全額を町が助成する制度に充実させ、林地流動化促進に積極的に取り組んできている。今後とも広報紙や町のホームページを通じて、制度内容の周知を図りながら、森林経営意欲のある所有者へ円滑に流動化されるよう努めていきたい。

酒井 林業を基幹産業にするためには、いかに地元の

人に林地を持ってもらうかが一つの大きな課題になるが、木材価格の低迷により、なかなか地元の人が林地を取得することは現実的に難しい状況にある。行政が利息の補てん、新植の補助金を出すだけで流動化が促進され、問題が解決するわけではない。問題解決のためには、行政には行政の役割、森林組合には森林組合の役割の中で連携して民有林地流動促進を図ることが重要であり、その論議がされているのか。併せて今後、町が山を守るためにどのような取り組みを行うのか伺う。

町長 農業に加えて何とか林業も基幹産業になるよう、町としては4月から管理職の職員を森林組合に出向させ、体制を強化するべく連携をとって林業行政を進めている。山の活性化のため、山から生み出した資源を有効活用する木質バイオマスを山づくりがまちづくりのきつかけとしたい。

◆観光振興

【酒井】 本町観光のメーンは何か。住民の一部から具体的なものが見えてこないとの声がある。富良野美瑛広域観光圏の中でも本町の観光振興が大変弱いように見えるが、これまでの具体例とこれからの具体策を伺う。

【町長】 富良野美瑛観光推進協議会では、南富良野町を資源型体験観光ゾーンと位置づけている。具体的には、ラフティングやカヌー、カーリングなどの体験観光がこのメーンであり、トマム、富良野、サホロに来る多くの人たちも足を運んでくれている。今後の具体策としては、新たな観光客を取り込むため観光協会に加盟する5社の方で協議会を組織して、サイクルツーリズムの推進に取り組んでいく予定となっている。今、外国から自転車による道内観光が富良野地方も活気が出てきているところで、富良野美瑛含めて十勝につながるラインをアジアナバーワンのサイクリングの

聖地にしようという目標を掲げているので、これらと連携した取り組みをしていきたい。また、8月にはエクステラジャパンチャンピオンシップ北海道大会がかなやま湖周辺を会場に今後10年間開催されるので、これらも応援する中で観光振興につなげていきたい。

◆請負契約

【酒井】 本町の請負工事等の契約において、一部の分野に偏って随意契約が大半を占める傾向にある。入札という制度の趣旨からいって随意契約には大幅な制限があるが、執行者としての考え方を伺う。

【町長】 地方自治法の規定により随意契約することができる9つの項目が掲げられている。町ではこれまで行政の継続性の中で随意契約を行ってきたが、考えなければならぬ時期に来ていると判断したので、今後は競争性を導入するものは随時、入札に移行するよう見直していく。

問 防災対策での自治会・町内会の連携は

答 専門部署で年内に実施する

一般質問（要旨）
阿部 修一 議員

◆防災対策

【阿部】 発電機や資機材庫、資機材については整備されているが、住民や自治会、町内会に対する対応と要支援者台帳整備の進捗状況を伺う。

【町長】 新設した専門部署である防災安全推進室において、地域防災計画の見直しを含めて非難訓練等の推進実施計画を検討しているところ、あわせて災害情報等の周知方法などについても検討を進めている。特に、避難訓練については、高齢化社会を踏まえ自治会等との連携が必要不可欠ですので、地域の方々の協力をいただく中で適宜避難訓練を実施していきたい。また、要支援者台帳の整備進捗状況については、現在要支援者台帳の名簿調整と地図上データの作成を進めており、年内を目途に完成させるよう努めていく。

【阿部】 住民周知について、特に高齢者の方になると1回言ってもなかなか理解が難しいということがあるの

で、どう周知していくか、我々も協力しながら進めていくので、町内会や自治会、連合会と速やかに連携強化を図っていかねければ、災害はいつ、どういう形で起きるか予測できないのであるべく早く進めることができないのか。

また、要支援者台帳は、社会福祉協議会で介護度、障害度などは把握していると思うので、社協や消防支署との連携も含めて、年内と言われたが、連携を含めた対応についてどう考えているか再度伺う。

【町長】 住民への周知は反復して行うことが重要であると考えているが、西町町内会で先駆的に取り組んでいることも参考にしながら、全町民一斉にといいのはなかなか難しいので、部分的なところから具体的にやってみて、その反省も踏まえ、次に展開をしていきたい。例えば保育所や小学校の避難訓練、3階建の住宅、大乗会の施設、役場庁舎などを消防支署と連携して避難訓練をするなど、どこか絞っ

た中からまず始めていきたい。これまで避難訓練をほとんどやっていないのが実態であり、4月に設置した専門部署である防災安全推進室が具体化していくので、要支援者の方々の対応をどうするか含めて、一つ一つ進めていきたい。また、町内会、自治会、連合会等々の協力をいただく中で、年内に取り組みをしていく。

◆公共施設等総合管理計画

阿部 国では各公共団体に對して、公共施設等総合管理計画の策定と施設の老朽化対策の推進を求めているが、本町のこれらの計画策定の見通しと、各施設の管理及び長寿命化の具体的な方針を伺う。

町長 国は平成25年11月にインフラ長寿命化基本計画を策定し、その中で地方公共団体の役割である行動計画が示され、これらの国の動きと歩調を合わせて速やかに公共施設等の総合的な計画的な管理を推進するための公共施設等総合管理

計画の策定に取り組むよう要請があつた。これを受け、本年2月から作業を開始し、平成28年度中の策定に向けて取り進めている。

計画策定の方針としては、箱物施設や道路、水道、下水道施設などのインフラなど公共施設の一部に年数経過などにより老朽化が進んでいる状況もあり、将来的に大規模改修や建替えを行わなければ老朽化がさらに進行し、安心して使用できなくなる可能性がありますが、一層厳しさを増すであろう財政状況を考慮したときに、全ての施設を維持、更新することは非常に困難であることや今後人口の減少等により公共施設等の利用需要が変化することを踏まえ、長期的な視点で更新、統廃合、長寿命化などを施設の適切な規模とあり方について検討し、可能な限り次世代に負担を残さない効率的、効果的なものになるよう、新しくつくることから、賢く使うこととして公共施設等の最適な設置をしていきたい。

問 移住に向けた政策は

答 移住体験住宅の整備や積極的な情報発信



一般質問（要旨）
川村 勝彦 議員

◆移住政策

川村 過疎化が進み人口が減少し続けている中、都市部や他地域からの移住によって地域が少しでも活性化する糸口、呼び水になると考えるが、これまでの移住の実績と今後の具体的な政策について伺う。

町長 移住政策は人口減少の抑制と地域の活性化につながる重要な施策の一つと考えている。今までの実績については、全てを統計的にまとめたものはないが、今まで来られた方の中に定年後に来られた方やアウトドア関連で来られた方、脱サラして店を始められた方、アウトドア関連で来て、結婚を契機に農業に転職をされた方もいる。現在は移住を促進するために住宅環境の充実、子育て支援、雇用の場の確保、これらの政策を総合的に展開しているところで、住んでみたいと思っただけの魅力のあるまちづくりを進めていくとともに、それを伝える情報発信が重要であると考えてい

る。ホームページによる移住情報の配信と相談窓口の開設、住居対策としての空き家バンク制度、さらには、今年度から実施している地域雇用確保事業による民間事業所の雇用機会の拡大、子育て支援として22歳の大学生まで医療費の無料化、さらには学校給食費の助成など、小さな町だからできるまちづくりを行ってきた。また、国が過疎化対策として進めている都市住民を過疎地域の地域活性化の新たな担い手として、地域おこし協力隊制度も積極的に活用をする中で、本年度は新たに5名の方を配置したところで、今後はさらに移住政策の充実を図るために移住体験住宅を設置して田舎暮らしをしてみよう、第二の人生、第三の人生をここからという人たちにも来ていただけることを考えている。新しいもののばかりをつくるのが行政ではなく、あるものを有効に再利用してそこに住んでもらって、利活用されていけば、地元の仕事、雇用にもつながっ

ていくので、いろいろと知恵を出し合って移住政策に取り組んでいきたい。

◆観光庁による広域観光周遊ルート

川村 観光庁が広域観光周遊ルートに道東北地域でつくる協議会が計画した周遊ルートを認定した。このことは外国人観光客の訪問先を地方に回したいという願いが入っている。このルート上に南富良野も通っているが、南富良野として具体的な取り組み、今後の展開をどう考えているのか。

町長 全国で7つの周遊ルートが認定され、北海道ではプライムロードひがし北・海・道推進協議会が申請した「アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道」が認定された。今後、国の支援を受けながら広域観光周遊ルートの形成計画が策定され、訪日外国人、旅行者の獲得に向けた取り組みがされる。外国人の延べ宿泊者数が平成25年度で25万泊以上の旭川、富良野、美瑛、トマム、層雲峡、帯広、十勝

川温泉、北見、網走、知床のウトロ、釧路、阿寒湖温泉、摩周、川湯温泉、この13力所が、広域観光拠点地区として設定され、この設定された地区をつなぐ動線として主要広域観光周遊ルートが今後形成されていく。ルートは、推進協議会の中で平成31年度までに形成される予定である。本町は富良野美瑛観光推進協議会の立場で参加しているので、富良野、トマムが広域観光拠点に設定をされて、本町もそのルート上の一つとして位置づけをされるよう取り組みを行っていききたいと思っている。今、道の駅再開構想を取り進めており、国土交通省の認定も受けたので、この構想を地方創生、地方版総合戦略の柱としていきたい。これまで道の駅については、ドライブの休憩所としての機能がメインであったが、道の駅が目的地、さらには観光拠点となるよう整備し、観光協会が中心的な役割となって総合案内所から地域の情報発信を行い、この富良野美瑛、さらに

は道東道につながる観光連携の情報発信基地としての役割も観光振興として図っていききたい。道の駅の活性化を図るためには少しでも多くの観光客を道の駅に取り組むことが、重要であるので、ルート形成に当たっては富良野から道の駅を経由してトマムにつながるルートとなるように働きかけをしていきたい。また、富良野とトマムをつなぐルートとなると、トマムインターチェンジへ接続されることが想定されるので、旭川十勝道路についてはトマムインターに接続することで今後の本町の発展、地域の活性化を大きく左右するものと考えられるので、ルートの有効性、さらには経済効果などを分析した上で、今後あらゆる機会を通じて関係機関に働きかけを行っていききたい。

川村 道東道の開通に期待を持ったが、期待と裏腹に国道38号線の通過車両が激減している。本州の方が千歳で降りて高速を使って道東まで遊びに行った帰りに

富良野や旭川に寄る場合にはトマムインターで降りて、この38号線を通って行くほうが近くて高速料金も安い。そういった情報もしっかりと多くの方に知ってもらうことも、小さなことだが必要である。

また、道の駅は有効利用したほうがいいと考えている。どこの道の駅も頑張っている新しい展開をやっている。体験型もいいと思うが、例えば、富田ファームのガーデンを一度に多くの方が見られるというところもある。外国の方にも話聞いても、牧歌的、花がきれい、湖がきれいだという部分で捉えている。道の駅のそばにきれいな花が植わっているガーデンができれば、観光の目的化の一つになる。そういう部分を通して半年はお客さんがそこに寄るので、冬の部分はまた冬で考えながらつくり上げていくことも必要だと思いがいかがか。

町長 かなやま湖のほとりには観光の拠点口グホテルラーチがあるので、ホテル

の周りで花を散策でき、道の駅には大きなガーデンと四季折々の花を入れた足湯があれば、ガーデン街道の一つとして富良野の南には花があることが宣伝になるので、町内の宿泊施設とも展開ができればと考えている。また、樹海峠の南富良野側の傾斜地帯に花があつてその山道を歩くのも観光の戦略になると思っている。観光ルートに繋がる金山の高台、落合、幾寅、かなやま湖でそんなこともしていきたいが、花は植えるだけでなく管理も含めて手間がかかるので、町民全体的に出てもらって南富良野ならではの観光をアピールができればと考えている。

一般質問（要旨） 小出 直由 議員



問 木質チップ工場の建設場所は

答 東幾寅地区で検討している

◆落合地区の地域振興

【町長】落合地区については

小学校閉校後、地域振興、雇用の創出が大きな課題となっている。そのような中、執行方針で言っている木質チップ製造施設の整備は、木工場があった地域としては新しい産業の拠点施設として期待するものである。建設場所の検討が進んでいると思われるので、その状況について伺う。

【町長】落合地区はもとより

各地区の地域振興については、最重要課題であると認識しており、種々事業の推進にあたっては、均衡ある各地区の振興、各地区の特色を生かした振興を念頭に置き、事業を推進していくことに努めている。森林組合が行う事業であるこの木質チップ工場の建設についても同様に考えており、町として工場建設場所をどこにするのか注目していた。建設場所は平坦で大きな面積が必要であることや今後の造林地とチップ工場の距離的位置関係など総体的な輸

送コストの抑制が見込まれる建設位置であること、チップ製造の際に大きな音が発生することから住民の日常生活や静観な自然を活用して営むアウトドアガイド事業者の方々の支障にならない場所であることなどを考慮し、森林組合からは東幾寅地区の一般廃棄物処理施設隣接用地としたいと説明を受けた。町としては、採算はもとより、住民生活への影響や観光事業者への配慮などさまざまなことを考慮した上で、森林組合として選定されたと判断し、説明に理解をしたところである。落合の地域振興のためには何とかならないか、いろいろと考えてみたが、最終的に森林組合の判断として、東幾寅地区の一般廃棄物処理施設の隣接地に設置したいという話であり、やむなしと判断した。

議会広報特別委員会を設置

議会広報特別委員会設置に関する決議が今定例会に決議案として提案され、議会広報特別委員会が設置されました。

議会広報特別委員会は、地方自治法第110条及び委員会条例第4条を設置の根拠とし、委員定数は7名（委員会構成のおり）で、住民に議会の活動を理解してもらうための議会広報の発行及び調査研究を目的とし設置するものです。

議会広報特別委員会では、議会広報が住民の皆さんにとって今まで以上に身近なものとしてご愛読いただけるようわかりやすく、見やすくを目標に議会の内容、活動状況を把握していただけるような紙面づくりをしていきたいと考えています。

お気づきの点などありましたら事務局までお寄せください。



■委員会の構成

委員長	小出 直由
副委員長	川村 勝彦
委員	阿部 修一
委員	酒井 年夫
委員	鹿野 重博
委員	金 重強
委員	大道 重治

北海道町村議会議員研修会（札幌市）



講師 今村都南雄 氏



講師 川村 晃司 氏

7月7日、札幌市において北海道町村議会議長会主催による北海道町村議会議員研修会が開催され、6名の議員が出席しました。研修会では、中央大学名誉教授今村都南雄氏による「地方議会を取り巻く最近の動向」と題した講演では、現在進めている「まち・ひと・しごと創生」政策は、地域の経営問題であり、二代表制として議会の関与は当然である。議会が責任を分担する時代であり、将来像を町部局に任せるのではなく議会からコンセプトを提起していくことが求められている。今、地方議会の対応能力が試されていると述べられました。

テレビ朝日コメンテーター川村晃司氏による「これからの政局・政治動向」と題した講演では、国の成長戦略に欠かせない女性の共同参画についてや現在行われている安保法制の国会審議について話され、政治家の唯一の武器である言葉が最近軽くなっていると指摘されました。

先進地優良事例視察研修 喜茂別町

7月8日、後志管内の喜茂別町を議員6名で視察しました。喜茂別町は札幌から中山峠を越えたところにある人口2300人ほどの町で、地域おこし協力隊の取り組みがテレビ等で報道され、その活動が注目されている町です。これまでどのような取り組みが行われてきたのか町長はじめ担当職員から話を聞きました。

第1期として平成22年から23年までの2年間10名を受入れ農業研修・農業支援、地区の懇談会、地区の神社祭の手伝い、高齢者外出支援などの集落支援活動を行ってきた。期限終了後も8名が町に残り、それぞれの得意分野の仕事に就いて地域内で活躍している。第2期3名の活動期間も終了し、2名が定住し就業している。

地域おこし協力隊は、定住することが目的で、より良い人材を求めることにより受入体制をいかに整備するかがこの事業を成功させるために重要なことであると説明を受けました。

○喜茂別町の受入体制

①集落支援員の配置
スケジュール作成など活動のバックアップを行う。

②タウンマネージャーの配置
週2回のミーティングによる活動の把握や指導を行う。

現在の取り組みや今後の考え方について四半期に一度面接を行う。
協力隊は地域のことを知らないの

地域がよそ者や若者を受入れ、地域でしつかり支えるサポート体制がなければ地域に溶け込み、活動することはできない。当初、地域は拒否反応を示し、地域のコミュニティを壊すと言われた。地域に出て1軒1軒歩いて、話し相手になることが大事だと言いつつ、少しずつ地域に馴染んでいったことなど定住するまでの経過を聞くことができました。

さらに、必ず2名1組とし孤立させない。役場が活動を見守っている姿勢を見せる。1週間に1回ミーティングを行って、協力隊にしゃべらせるなど取り組みを行っていくうえで必要なこともアドバイスいただきました。

最後に町長より「小さな町同士、今後も情報交換しながらお互い頑張りましょう」と言葉がありました。



町長の 行政報告



■ 金山市街地ガソリンスタンドの存廃問題

昨年6月開催の町議会定例会において、金山地区でガソリンスタンドを経営しております株式会社佐藤商会より、平成27年12月末をもって廃業する予定である旨の行政報告をさせていだいたところであります。金山地区のガソリンスタンド閉鎖は下金山地区を含め今後の住民生活、地域振興に際し、大きなマイナス要素となることから、町といたしまして、その存続に向けまして、同社並びに親会社であります旭川石油株式会社とこの1年間継続

して協議を重ねてまいりました。その結果、両社のご理解をいただき、当面引き続き従来どおり営業を継続していただけることで協議が調いましたので、引き続き町内での給油等につきまして、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

■ 地域おこし協力隊の増員

地域おこし協力隊につきましては、地域の住民となり、都会からの視点で町の魅力、足りないもの、工夫が必要なことなど、小さなことでもそれを一つのきっかけとして地域活性化につながるよう、平成26年度より導入を図ってきたところであります。

本年度2名の協力隊を増員する予定で募集を行ったところ、道内者2名、道外者5名、計7名の方々に応募をいただきました。

地域おこし協力隊については新聞でも報道されておりましたが、道内で募集を行っても応募のない地域が3分の1程度ある状況となつていの中にありまして、

今回、下金山、金山地区に配置する2名につきましては、予定どおり採用することができたところであります。

また、町としては地域力の低下を少しでも補うため、今後も協力隊の増員を図る計画でございましたが、4月には落合地区から配置について要望があり、さらには、

本年8月下旬に本町かなやま湖を主会場として行われますエクステラジャパンチャンピオンシップへの開催協力並びに自転車による新たな体験観光メニューの開発等を推進すべく、まちづくり観光協会の体制をより強化するため、落合地区及び観光協会へそれぞれ配置いたします協力隊2名の増員をさせていただくことにしたところであります。

また、既に北落合地区に配置しております協力隊員からは、一身上の都合により7月末をもって退任したい旨の申し出があり、事情やむを得ないものと判断いたしました。この補充要員もあわせて採用させていただくよう取り進めていると

ころであります。町といたしましては、今後も地域おこし協力隊の制度を有効に活用し、地域の活性化に向け取り組みを進めてまいります。

■ 下金山における山部二期地区、国営造成土地改良施設の改修整備に伴う小水力発電事業

空知川上流土地改良区の管理施設であります頭首工及び幹線用水路については、国営事業により平成22年度から老朽化に伴う改修整備が進められており、その整備計画の中で用水路と河川との落差を利用した小水力発電の可能性についても検討調査が行われてきたところであります。

今般、旭川開発建設部から町に対し、水力発電施設の整備概要について次のとおり説明がありました。

発電施設は、頭首工下流の左岸約150mの位置に設置し、約7mの落差を利用し、プロペラ水車を利用した発電施設で、概算事業費は4億円となる見込みであり、完成後の発電を行う

期間は毎年4月初旬から11月中旬を予定し、年間発電電力量は約63万kw、一般家庭にしますと110戸分相当の利用電力を見込むとのことあります。この発電した電力は、北海道電力に売電される計画で、空知川上流土地改良区には年間1700万円の収入が見込まれることになり、この収入は施設の維持管理費用に充てられるほか、受益農家の負担軽減に充てられる予定とのことあります。

工事の実施時期は平成28年度及び平成29年度の2カ年で整備を行い、平成30年度からの発電を目指して整備を進めていくとのことでありました。町といたしましても、この小水力発電事業は受益者負担の軽減とともに、町が進めている再生可能エネルギーの活用分野の事業でありますので、引き続き本事業の推進について旭川開発建設部のご努力を賜るよう要請いたしました。

■ 道道及び国道の改良

道道金山幾寅停車場線は、

通勤、通学、通院、買い物など幾寅地区と金山、下金山地区を結ぶ生活道路であり、また、本町の主要観光地であるかなやま湖に沿う観光道路でもあり、生活、観光、産業と多岐にわたり重要な路線であります。山地と湖に挟まれた区間であり、幅員が狭く、ヘアピンカーブが続く線形であるため、車両の車線逸脱や視距の悪さから安全な交通を阻害しており、線形改良は本町にとつての長年の大きな懸案事項でありましたが、本年度より事業が開始されることになりました。全体の事業計画は、ヘアピンカーブに5つの橋梁を新設し線形改良を行うもので、平成27年度は金山側に最も近いヘアピンカーブに橋台を整備する事業内容となっております。また、平成23年度から開始された金山不二地区の歩道拡幅工事は、国道237号線の接続箇所までの事業が今年度完了する予定であるほか、金山ダムサイトの擁壁改修工事が実施されております。次に、国道

38号線では、昨年度より南富良野高等学校グラウンド前から幾寅、川上地区までの左側約1700m区間について、歩道及び路肩の拡幅工事が行われておりますが、本年度は残り400m区間の歩道及び路肩拡幅と松井会館から落合方面に向かう右側約1150m区間の路肩拡幅工事が行われます。

幾寅、太平橋については、幅員が狭く歩行者等の安全な通行を阻害しており、数年来、幾寅地域から橋梁の拡幅要望があり懸案事項でありましたが、歩道橋設置に向け本年度詳細設計が行われることになりました。また、あわせて物産センター前からチエーン着脱場までの両側の路肩拡幅が行われることになり、本年度は物産センター前から太平橋の間の路肩拡幅工事が行われる予定である旨、関係機関から連絡を受けております。

議会の動き

平成27年6月～7月

- 6月5日 ○富良野広域連合議会臨時会
- 7日 ○南富良野小学校運動会
- 11日 ○国保運営協議会
- 13日 ○金山小学校運動会
- 14日 ○下金山小学校運動会
- 15日 ○上川総合開発期成会定期総会
(旭川市)
- 17日 ○北海道町村議会議長会定期総会
～18日 (札幌市)
- 18日 ○全員協議会
- 19日 ○議会運営委員会
- 25日 ○第2回町議会定例会
- ～26日 ○議会運営委員会 ○全員協議会
○総務常任委員会
○議会広報特別委員会

- 7月4日 ○第35回南富良野大乘会スポ・レク
交流会
- 5日 ○南富良野消防総合演習
- 7日 ○戦没者追悼式
- 7日 ○北海道町村議会議員研修会
(札幌市)
- 8日 ○先進地優良事例視察研修
(喜茂別町)
- 18日 ○衆議院議員今津ひろし政権セミナー・自由民主党北海道第6選挙区
支部政策懇談会(旭川市)
- 26日 ○かなやま湖湖水まつり開祭式

議会を傍聴してみませんか

次の定例会は9月15日から
16日開催の予定です。

町議会の定例会は、
年4回(3・6・9・12月)開催されます。



ご意見ご要望をお寄せください

議会や議会だよりに対する
ご意見・ご要望をお寄せください。

役場議会事務局 ☎ : 52-2114